



# 大地の芸術祭と NPO法人越後妻有里山協働機構の取り組み

NPO法人越後妻有里山協働機構  
山田 綾

# 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ

- ▼ 越後妻有地域の里山を舞台に2000年から3年に1度開催する**世界最大級の国際芸術祭**
- ▼ アートを通じた**地域づくり・地域おこしプロジェクト**
- ▼ 「人間は自然に内包される」を基本理念とし、来訪者は**現代アートを道しるべに里山の魅力を体感**



# 越後妻有（えちごつまり）地域

十日町市 & 津南町 = 越後妻有

区分	十日町市	津南町	越後妻有
2005年(合併時)	62,058人	11,719人	73,777人
2025年2月現在	46,919人	8,413人	55,332人
面積	590.4km <sup>2</sup>	170.2km <sup>2</sup>	760.6km <sup>2</sup>



東京23区 627.6km<sup>2</sup>



新潟市 726.1km<sup>2</sup>

合併前  
～2005.3.31



合併後  
2005.4.1～





## 世界有数の豪雪地

人口3万人以上の土地では世界でも有数の積雪エリア



## 1500年にわたって伝承された里山文化

棚田や瀬替えなど、自然と関わる高い技術。生活の集積としての文化が成熟。



## 越後妻有を縦断する信濃川

ダムや水力発電所など、地域の主要産業の源。



## 卓越した土木産業、豪雪対策

スノーシェッドや雪崩防止柵の整備、日々の除雪



## INDEX

学んでお得

スマホで簡単 割安カーシェアの活用術

買い物上手

転がすだけ? グーたらダイエット器具

NIKKEI  
プラス1

カラダづくり

残暑をはらすビール もう一杯にご用心

食の履歴書

森内俊之さん 名人位守った勝負飯は…

くらし物語

あのヒット曲が定番に 当世盆踊り事情

1位  
56071

星峠(新潟県十日町市)

人工物なく圧倒的スケール

棚田が多いことで知られる十日町市でも最も広い。東京ドーム  
り倍以上の広さに約200もの田んぼが作り鉢状に並び、圧倒的な  
スケール感がある。広大なのに家や道路などの人工物が見えない  
のも特徴。「田舎が出現することが多い早朝は幻想的だ」(岩佐  
十良さん)。NHK大河ドラマ「天地人」のタイトルバックにも  
なった。全景が見下ろせる南側の展望台は撮影ポイントになる。  
稲刈り後にも田んぼを眺めながら、地元産の山菜(山菜)を

時期でも見られる。若草、深緑、紅葉、銀白と四季ごとに色が変  
わり、「棚田の向こうに連なる山々も美しく見えない景色」(西  
村りえさん)が望める。「何度訪れても違う写真が撮れるのでリ  
ピーターが多い」(青柳健二さん)

コメの質も高い。棚田で育ったコシヒカリは全国最高級の無汚  
染ブランドだ。①はくはく稲「まつだい産」からタタキで約20分

## 何でもランキング

## 棚田移ろう絶景を見に行

日本の原風景ともいえる棚田。外国人観光客に人気の山間に沿う幾何学模様や海とのコントラストの季節を前に、フォトジェニックな棚田

日本の棚田ランキング1位の棚田でさえも耕作放棄地に

日本経済新聞 2017年8月26日

# 大地の芸術祭 10の思想

アートは地域を発見する

人間は自然に内包される

他者の土地にもものをつくる

あるものを活かし新しい価値をつくる

アートを道しるべに里山をめぐる旅

地域・世代・ジャンルを超えた協働

公共事業のアート化

ユニークな拠点施設

生活芸術

グローバル／ローカル

美術は地域をひらく  
大地の芸術祭10の思想  
北川フラム

Echigo-Tsumari Art Triennale  
Concept Book



東の「大地の芸術祭」、西の「瀬戸内国際芸術祭」は、  
現代美術による地域再生の方程式だ！

——福武総一郎 | 株式会社ベネッセホールディングス取締役会長/瀬戸内国際芸術祭総合プロデューサー

「大地の芸術祭」が、地域の進む道を示してくれた。

——関口芳史 | 新潟県十日町市長/大地の芸術祭実行委員長

# アートは地域を発見する



《たくさんの失われた窓のために》2006  
内海昭子 Photo T. Kuratani



## 地域の誇りを取り戻す





# 人間は自然に内包される

《信濃川はかつて現在より25メートル高い位置を  
流れていた—天空に浮かぶ信濃川の航跡》  
2003、磯辺行久



1999年中里村で1万5千年前の地層から自然堤防跡が発掘され、古信濃川は現在より25メートル高い段丘中位面を流れていたことが確認された。大地創生の痕跡をじかに見る舞台を作ることが作品の意図だった。



# 他者の土地にものをつくる

四月、輝く太陽。雪は消え、湿っぽい露が空中を元たすずんぐりした馬が、重い耕作用の鋤を懸命に引っ張る。春のうちに、田んぼの準備を人念に、新たな播種と種の植え付けのために。

太陽が照りつけ始める。田の面が、暁の光に光る。暖まった大地に種を播いてゆく。大地から濃く生い立っていくように。

五月の太陽の下に木々は芽吹き、田の水はゆるんでくる。大地から生えた芽は伸びてゆく。植え付けられた植物が大地を着飾らせるように、奇妙な木製の枠々々を転がして、

運し、玉のような汗が滴り落ちる。棚田から棚田へと列つては、まわらないように。

人影は見えないほどに、高く成長した稲穂。九月。鎌をふるい、一粒も残さず収穫を取り込む時だ。田から重い束をやつとのことて運び去る。十月までにはすっかり乾燥させ、脱穀するための。

《棚田》2000

イリヤ&エミリア・カバコフ

Photo Nakamura Osamu



## 事業構成 | 芸術祭に関わる多様な人々

### 地域 住民

- ・土地の提供や作品制作への参加
- ・ガイド等ボランティア300名以上

### NPO

- ・U/Iターンした若手移住者等
- ・地元出身者の就業

### こへび 隊

- ・首都圏やアジア圏を中心に、  
累計5,000名以上がボランティア参加
- ・作品制作、受付、ガイド、除雪協力

### 行政

- ・十日町市
- ・津南町
- ・新潟県
- ・国（文化庁） etc.

### 作家

- ・国内外のトップから若手まで  
多様なアーティストが参加

### 企業

- ・事業連携
- ・広報支援
- ・オフィシャルサポーター

# 2008年 NPO法人越後妻有里山協働機構 発足

大地の芸術祭事業が継続するなかで、日常的に作品の管理や運営、地域とのコーディネートを行う  
必要が出てきたことをきっかけに、越後妻有地域で暮らし、活動するNPO法人が設立された。



Photo Nakamura Osamu



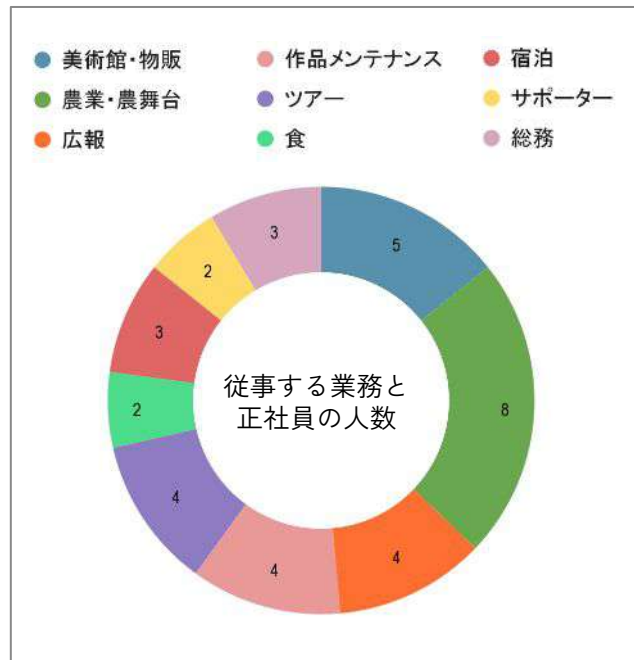
## 組織

理事長 北川 フラム  
副理事長 高島 宏平（オイシックス・ラ・大地株式会社代表取締役社長）  
渡貫 文人（NPO法人市民活動ネットワーク ひとサポ理事長）  
理事 奥野 恵、志賀 孝、金代健次郎、山下真輝、  
玉木有紀子、藤野 健、高木千歩  
監事 葉葺利男、茂木愛一郎

正会員 23名

## 従業員

合計 75名（正職員 35名、アルバイト・パート 40名）※2025年8月実績



## NPO設立の理念と目的

大地の芸術祭によって地域・世代・ジャンルを超えたネットワークを育み、越後妻有の未来に繋げることで、

住民がいきいきと暮らすこと

地域の働く場所が増えること

価値観や境遇の異なる人々が共存できる地域にしていくこと



芸術祭で生まれた作品、プロジェクトを通年事業として運営するために2008年に設立。施設の運営・委託管理だけでなく、ツアーや食、宿泊などの自主事業も幅広く展開している。近年は作品制作や季節ごとのイベント企画立案・運営も担う。芸術祭運営のロールモデルとして、他地域芸術祭の運営、広報なども受託し出稼ぎすることで、大地の芸術祭本祭以外にもNPOとして活動を継続できる仕組みの構築を目指す。



# 2003年 まっだい棚田バンク 発足

田んぼなどの民地に芸術祭作品が展開したり、アーティストの作品制作に地域住民に協力したりと、芸術祭を行う過程で地域とのネットワークが広がった。過疎高齢化する越後妻有では、農業の担い手不足が深刻な問題となっている。作品設置されている田んぼの所有者から景観維持も含め、田んぼを引き継いでもらえないかと相談をうけたことにより、地域の田んぼの耕作も引き受けるようになり、棚田オーナー制度として現在事業を展開している。



棚田バンク  
まっだい



# まつだい棚田バンクとは？

## 都市・農村間の交流を通して越後妻有の棚田を保全する棚田オーナー制度

現在は、NPO法人越後妻有里山協働機構が運営。地元・松代エリアを中心に引き受けた田んぼ（東京ドーム2個分以上の耕作面積）を管理し、面積・里親数ともに日本一の規模に。2015年よりFC越後妻有が農業チームに参加。近年は企業オーナーがつき、里親の付いた保全面積が拡大している。



	2022	2023	2024	2025
保全面積	87,040㎡	100,700㎡	100,160㎡	115,457㎡
収穫量	17,765 kg	18,480 kg	16,950 kg	21,150kg

2020年から星峠の耕作面積が拡大、現在38枚の棚田を預かる（2025年）



# まつだい棚田バンクの仕組み

棚田の日常管理は地元農家と事務局で行い、農繁期の作業や運営資金を里親がサポートし、皆で棚田を保全する仕組み。収穫したお米は全体の収量と里親の保有面積に応じて配当される。田植え/稲刈りイベントには、延べ200～300人が集まり、作業を行なっている。

棚田

収穫米の配当

まつだい棚田バンク  
日常管理

里親

出資・米づくりに参加

## 田植えイベント



## 草刈りイベント



## 稲刈りイベント



## 配当



## 会員数の推移



TBS 「THE TIME.」にて安住アナウンサーの生中継、番組が棚田バンクの企業オーナーに

	標準	小口	企業
2016	66	126	8
2017	58	158	9
2018	43	138	10
2019	33	116	14
2020	38	140	8
2021	46	158	10
2022	61	157	12
2023	56	180	15
2024	52	165	30
2025	110	215	60





FC越後妻有によるPR「新米お届けし隊」



諸国良品  
純米無濾過原酒 日本酒



スマート農業実証実験への参加



新米の実食販売

# 2014年 雪見御膳プロジェクト 開始









# 里山文化と生活美術を 取り入れた越後妻有の食





# 大地のおかずプロジェクト



四季折々の食材を活かした里山の味を、瓶詰めスタイルで全国各地に送り出す試み。豪雪地帯ゆえの塩蔵、乾燥、瓶詰めなど保存の知恵も生かし、越後妻有で暮らすお母さんたちが受け継いできた味でつくる里山の「おかず」たち。

# 冬の豪雪を魅せるプログラム



越後妻有 雪花火



# 冬の企画



越後妻有の豪雪を気軽に体験でき、思い切り遊ぶ  
ことができる雪上のグラウンドを奴奈川キャン  
パスのグラウンドで展開



# 企業研修やセミナーの場にも

ECHIGO-  
TSUMARI  
ART FIELD 2022

有形無形をつなぐアートのか

越後妻有  
「アート×経営」  
セミナー

日本企業の今後の課題のひとつとして、無形資産の創造と活用を指す声があります。無形資産は、経験、知識、ノウハウ、こだわり、ブランド、技術、ネットワークなどです。地方創生のモデルとして国内外から注目を集める「大地の芸術祭」は、役に立たないと言われた現代アートを軸に運められた地域づくりです。20年余前、ほぼ地元金員反対のなかにはじまった取組ですが、アートが媒介となって、休耕田や空き家や廃校を蘇らせ、その過程で人と人、人と自然の回路を再構築することで、新しいコミュニティの可能性を示してきました。フィールドワーク、コワーキング、プロボラ＆レビュアからなる1か月のセミナーでは、「場の発見力」、「物語の構想力」、「買収ものの媒介力」など、アートがもつ有形無形の力を体感し、越後妻有のスタッフとともに地域課題と向き合うことで、参加者それぞれの現場で花開くようなイノベーションの種を持ち帰っていただきたいと思います。買収者が集まったチームが大切です。多種多様な皆様からの参加をお待ちしております。

主催：大地の芸術祭実行委員会 共催：NPO法人越後妻有芸術振興機構 企画：株式会社アートフロントギャラリー  
後援：一般社団法人日本経済団体連合会

Ridilover  
社会課題も、みんなのもの。

10.16 Thu  
10.17 Fri

社会課題の現場に飛び込み  
多企業人事担当者と学ぶ  
2days  
越境学習モニターツアー





## 土地に対して誇りを取り戻す



先人から苦勞して耕してきた棚田を  
来訪者が美しいと言ってくれる



地域の食材を自分たちで振る舞う